

2022年8月10日

～毎月10日は人権を考える日～

『自分ごととして考える』難しさ

差別問題については、「自分のこととして」考えることが不可欠だと考えます。「他人（ひと）のこと」として考えると、どうしても後回しになったり、そのうち状況が変わるだろうと楽観的な見方をしてしまったりしがちです。

自分がいじめられている事実があるときに、そんな悠長なことを言っているのでしょうか。一刻も早くこの状況を改善したい、一秒でもこの状況が続くことは耐えられないと思うでしょう。「いじめ」は子どもの間だけでなく、大人の間でも起こります。「ひやかし・からかい」「ネットによる誹謗中傷」「差別」など形は様々です。「いじめ」や「差別」は相手の人権を侵害し、深刻な身体的・精神的苦痛を与えます。

差別の一つに部落差別があります。自分の身に降りかからない時には、「他人ごと」と考える人が多いように思います。そのうち世の中が変わるだろうとか、時間が解決してくれるとか、騒ぎ立てない方がいいだろうとか考えてしまいがちです。これを「自分ごと」と考えるとどうでしょうか。

「太政官布告（身分解放令）が出てから150年経っているのに、未だに差別をする人がいるのはどういうことだ。身分がなくなっているのに、差別する人がいるのは許せない。見えにくい差別の状況をしっかり見抜いて、今すぐ何とかすべきではないか。」

このように「自分ごと」として考えると必死になるのは当然だと思いませんか。いじめや差別をなくす（解決する）には、「自分ごと」として考えることが不可欠です。

しかし、この「自分ごと」として考えるためには、自分がいじめられている（差別されている）と想像できなければなりません。自分に起こった小さな出来事から学ぶ姿勢を持たなければなりません。さらに、自分がその状況になったら、どんなことを考えるのだろうか。また、何をするだろうと思えばなりません。そして、自分の考えたことを行動に起こさねばなりません。その行動が差別をなくすことにつながると思っています。一人一人の考えと行動が差別をなくす原動力になると信じています。西条市から差別をなくしていきましょう。